

キリスト教精神で世界と向き合う心と力を

キリスト教の教えに基づく「愛と誠」の心。目指す進路を叶えるための学習。世界と交流するコミュニケーション力。部活動や学校行事などの多彩なタスク。横浜女学院の6年間の学びは、学力のみならず、仲間や社会のために自分は何ができるか考え行動する視点と力を育みます。将来、良い人生だったと実感できる、人としての礎を本校で築いてほしい。そのような願いをこめて、成長段階に応じた大切な学びをタイムリーに体験する教育プログラムを展開しています。



育成したい生徒像

神様と人に愛されている存在として、自己受容力を高め、多角的かつグローバルな視野をもち、社会貢献を果たすことができる生徒

- 批判的に考える力
- 他者と協力する力
- 未来像を予測して計画を考える力
- つながりを尊重する態度
- 多面的・総合的に考える力
- 進んで参加する態度
- コミュニケーションを行う力

個性と目的意識に合わせ、深く広く学ぶ

生徒一人ひとりの個性や目的意識に応じ、「国際教養クラス」「アカデミッククラス」で学びを展開します。緻密な学習体制とキリスト教に基づく人間教育を核とし、ESDとCLILのプログラムで英語運用能力や国際的な視野を豊かに養成。真の学力を身につけ、目標とする大学合格を実現、さらにその先、広く世界の人々と協働し、持続的な発展に貢献できる人材を育成します。

資料編 P.15-16

国際教養クラス

教科学習と人間教育、国際教育を英語で実践。国公立大学、国際教養系大学や海外大学を目指す。

「国際教養クラス」の学習方針

- ESDとCLILを密度濃く学び、海外大学にも対応できる英語4技能+αを養成
- 概念型学習により、学んだ知識を基に活用していくコンピテンシーを育成
- 国際的な課題に気づき、考え、解決する意欲と能力を育成
- 第二外国語を必修とし、中国語・ドイツ語・スペイン語を習得

「国際教養クラス」の英語・国際教育

- 全員参加で中3時にニュージーランド海外研修を実施(1ヵ月間)
- 希望者対象で高1時にアメリカの提携大学へ研修(3ヵ月間)
- 希望者対象でアメリカやニュージーランドに各種留学制度を用意
- 希望者対象でアメリカやドイツなどに海外セミナーを用意
- 中3からリバティー大学オンライン講座を必修

多様な文化に触れる充実した毎日。
夢は留学して英語で研究すること。

国際教養クラス 中学3年 藤崎 花音

6年間で英語を話せるようになりたくて、国際教養クラスに進学しました。CLILでは英語をシャワーのように浴びますし、ネイティブの先生と話すことが日常になっているので、英語力が身につけてきたことを実感しています。第二外国語では未知の言語や文化に触れて、驚いたりワクワクしたり。留学して歴史を英語で研究することを目標に学び続けたいと思います。



Interview

アカデミッククラス

緻密な学習体制と多様な経験を重ねて真の学力を培い、難関大学を目指す。

「アカデミッククラス」の学習方針

- 難関私大受験を想定した学習体制
- 基本的な事項を徹底的に学びながら発展
- ESDの学びから探究する力、発信する力を育成

「アカデミッククラス」の英語・国際教育

- 全員参加で中3時にニュージーランド海外研修を実施(12日間)
- 希望者対象でアメリカやドイツなどに海外セミナーを用意
- 希望者対象でアメリカやニュージーランドに各種留学制度を用意

コロナ禍に学び、見つけた夢。
将来は医師になって社会貢献。

アカデミッククラス 中学3年 中西 花帆

ESDのSDGsの授業で、困っている人のために多くの企業が協力していることを知り、私には何ができるだろうと考えました。コロナ禍の中で学んだことで、医師になって社会に貢献するという夢が生まれました。近いところでは、中3の夏前に数学検定の準1級に合格することが目標。難関に取り組む楽しさを知り、さまざまなことに挑戦する意欲が湧いてきます。



Interview



身近な地域から世界各国の問題まで、 自分にできることを考え行動する

横浜女学院が注力するESD(持続可能な発展のための教育)は、SDGsに基づき多角的に問題解決型思考力を養成。CLIL(内容言語統合型学習)は、「英語で」学び5技能を高めます。これらにより培った力を土台として、探究(概念型学習)を導入しました。自ら関心のあるテーマをもとに考察を深め、学んだ知識を基に思考し活用していく、これからの時代に求められるコンピテンシーを磨きます。

資料編 P.17-20



ESD Education for Sustainable Development + CLIL Content and Language Integrated Learning で国際的な視野を養成

ESD 「持続可能な社会の発展のための教育」を核とした新たな取り組み
あらゆる授業・学校行事・部活動を通して実践

CLIL 教科学習と英語学習を組み合わせた内容言語統合型学習
様々な教科・テーマを英語で学び、英語の5技能を高める



ESD活動例 / 横浜元町×横浜女学院 SDGs PR・DAYの様子

Interview

横須賀ビジネスコンテストに挑戦。商店街大改造計画が実現へ。

高校2年 三田 早希子

ESDの一環として、地元横須賀市のビジネスアイデアコンテストに友人の入濱さんを誘って挑戦。シャッター街になってしまった商店街を若者が集まれる場所に、昔のような活気を取り戻そうという企画です。4月には商店街の会長さんや市役所の方と一緒に、実現に向けて会議を実施。以前から興味があった「地域創成」に参加することができて、達成感を感じるとともに、諦めずに努力することの大切さを実感しました。



探究で自律的に学び続ける資質を養成

探究 (概念型学習) 知識を学ぶ従来型学習と、概念化して考察を深める探究型授業を交互に行う学習法
教科を横断して知的好奇心を刺激し、学ぶ楽しさを実感



Interview

知識を使って、さまざまな出来事を自分事としてとらえていく面白さ。

中学3年 藤崎 花音

授業や調べ学習で身につけた知識をどう生かすか。それが探究の面白さです。歴史の授業では、関心のあるテーマを掘り下げるにあたり、事実上の問い・概念的な問い・議論の分かれる問いに分けて考察、自分なりの答えを導き出します。探究を学ぶことにより、歴史上の出来事やSDGsの問題を身近なことに当てはめて考えられるようになり、試験の結果なども自分で見える化し弱点を改善していく習慣もついてきました。



第二外国語で言葉と文化に親しむ

第二外国語の授業では、ドイツ・スペイン・中国について、その言語を学ぶとともに、各国の文化に対する理解を深めます。オリジナルテキストや映像を活用して、食べ物や教育、伝統のお祭りといったテーマを取り上げ、世界の人と交流する楽しさを体験できる機会です。英語圏以外の国に親しむことで、多文化共生など、世界の諸問題への意識を高めることができます。



未知の問いに挑む 学びプロジェクト

課外活動の「学びプロジェクト」では、中高生と一緒に社会の中の「答えがない問い」に取り組みます。自分の興味・関心を究めるため「学びプロジェクト遠足」も行い、仲間との絆も深めています。



学びプロジェクトの活動例

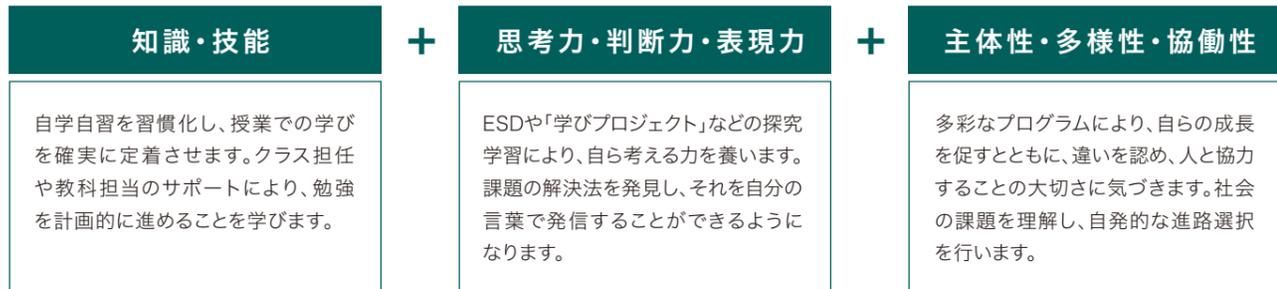
- テーマの例
「他校の生徒と模擬国際会議をやってみよう」
「他校との哲学対話」
「ドイツ・メキシコの学生と気候変動について語り合おう」

- ① 参加者全員に共通テーマが与えられ、そのテーマについてどんなことを深く知りたいか意識しながら、各自で調べ学習を行います。
- ② 「中間発表」を行い、教員のアドバイスを受けます。
- ③ パワーポイントで発表を行います。教員からフィードバックを受けると同時に、時には参加者がディベート形式で議論して学びを深めます。

今後、生徒からのテーマの提案や、フィールドワーク、アンケート調査によるリサーチなども予定されています。

6年間の一貫教育で 本当の「自分らしさ」を見つけ発揮する

大学受験は、人生のゴールではありません。先の見えない変化の激しい社会の中で、自分が本当に進みたい道を見つけ、前に進む力を備える必要があります。横浜女学院は中高6年間の一貫教育の中で、「知識」「技能」を身につけると同時に「思考力」「判断力」「表現力」を養い、校内・校外を舞台としたさまざまなプロジェクトが一体となって、「主体性」「多様性」「協調性」を育てます。



□ 探究学習により 社会の諸問題の解決に取り組む

より深い学びを得るための、探究学習を充実させています。ESDの授業でSDGsなど国際社会の諸問題に取り組むと同時に、CLILでそれらを英語で理解し、英語で発信するための力をつけます。課外活動の「学びプロジェクト」は、さらに自由な発想で身近な問題の解決を目指します。



□ エコを考える全国的な活動 Blue Earth Projectに参加

ESDの一貫として、全国的に開催されるBlue Earth Projectに参加。他校の生徒とチームを組み、ごみの削減やリサイクルのアイデアをまとめ、全国大会で報告を行いました。エコを体験するためのブースも設置し、エコバッグやキャンドル作りなどを通して環境保護を訴えました。



第1ステージ「基礎期」

学習 「基礎学力の徹底と学習習慣の獲得」

週1日の「勉強クラブ」では、自習の仕方を学ぶだけでなく、ノートの取り方など授業にも活用できるプログラムを行い、自ら課題に取り組む姿勢を育成します。

進路 「自分探し・生き方探し」

探究Dayや学びプロジェクトを通じて、日常の「学び」を発展させて、自らの将来への興味関心を見つけていきます。

第2ステージ「展開期」

学習 「課題解決能力の向上」

進学講習を通して、文系・理系に関わらず幅広い知識を習得して活用していく力を身につけます。

進路 「自分発見・自己探究」

ESDや海外セミナーなどを通じて、興味や関心を広げ、自分の進路を見つけていきます。進路目標を考えるだけでなく、目標を達成するために必要な力を身につけます。

第3ステージ「発展期」

学習 「教養を身につける」

大学入試に向けての力だけでなく、大学入学後に必要な力である「教養」も身につけます。身につけた知識を知性に、そして、知恵に発展させていきます。

進路 「自己実現へ」

高い進路目標を設定し、時期に合わせた戦略を徹底しモチベーションを向上させます。また、大学受験を通じた人間的な成長も後押しします。



壁のない職員室は、いつでも「私」の居場所

壁のない職員室。それは心の中に障壁をつくらず、一人を皆で支えるという、横浜女学院の基本を象徴するものです。生徒たちは自由に訪れては、学習の質問をしたり、悩みや進路の相談をしたり。教員たちも一つの空間に机を並べ、生徒一人ひとりの情報を共有しています。卒業生たちもよく顔を見させてくれます。



□ 全教員で見守る壁のない職員室

壁のない職員室は個人授業や自習の場になったり、進路相談の場になったりと、全教員が家族のような思いで力を尽くす空間。一人の生徒に対してさまざまなアプローチをして自分を見つけていきます。

□ 大学生チューターによる学習フォロー

「勉強クラブ」や「大学生補習」、「学習センター」での自習は、現役大学生のチューターがサポート。学習面での質問はもちろん、学校生活や進路などについても気軽に相談できる存在です。

□ 授業や交流にICTを積極活用

中学1年生から1人1台タブレットを持ち、ESD、CLILや探究学習でのリサーチやプレゼンテーションに活用。情報収集力・分析力・発信力を育てています。教員と生徒が双方向で活発に意見を交わすためのツールともなっており、生徒の声を授業づくりに反映させています。



ありのままの私たちを受け入れてくれる先生方。
心にも「壁」がないから、安心して相談できます。

高校2年 入濱 薫

横浜女学院の職員室には、「壁」や「ドア」がありません。小学校時代の職員室のイメージとあまりに違ってため、初めて見た時には驚きました。物理的に壁がないことで先生方との距離を感じることなく、とても行きやすく、安心できる場所になっています。勉強でわからないところを教えてもらったり、進路の相談をしたり…。目的がある時ばかりでなく、ただ雑談したくて立ち寄ることも多く、職員室に行くことが日常生活の一部になっています。横須賀市のビジネスアイデアコンテストに挑戦した際には、その準備段階で担任の先生や学年主任の先生にいろいろ相談しましたが、常に前向きなアドバイスをくださり、とても心強く感じました。安心感があるから勇気をもってさまざまな挑戦ができるのだと思います。

Interview



仲間と泣き、笑い、大切なことを学ぶ

文化部14部、運動部8部があり、2022年度は「教科学習との両立」をテーマとして練習計画を立てています。先輩・後輩・仲間との交流を通して自らの役割に対する責任を学び、社会性を身につけます。なお、部員数等によって、2023年度以降は適宜見直すことがあります。



運動部

バレーボール部/バドミントン部/バスケットボール部/体操部
ダンス部/ソフトテニス部/ソフトボール部/チアリーディング部

文化部

演劇部/文芸部/理科部/YCA部/美術部/書道部
コーラス部/写真部/調理部/自然部/吹奏楽部/パソコン部
イラスト部/数学研究部

課外活動

華道/茶道/煎茶道

特別な活動

国際研究

同好会

スポーツ



Interview

「輝きたい!」と始めた部活動。勉強と両立させ、人としての成長を目指します。

チアリーディング部 高校3年 畑 京那

文化祭でチアリーディング部の演技を見て「私もあんなふうになりたい!」と入部を決めました。今は部長として部をまとめていくのが大変ですが、いつも顧問の先生やチームメイトがサポートしてくれます。初心者の入部者も多く、基礎からレベルアップすることができます。勉強と両立させることも部の大切な目標となっていて、技を磨くだけでなく、人としての成長を目指しています。



Interview

楽しくおしゃべりしながら活動、数学の成績がアップしました!

数学研究部 中学3年 柳田 奈優

皆で楽しくおしゃべりしながら問題を解いています。数学が苦手だけれど力を伸ばすために参加している人もいて、「こんなふうになると解きやすい」と、先生や先輩たちが教えてくれます。この研究会のおかげで、数学の試験の点数が1年で10点くらい上がりました。国語は苦手でしたが、数学に関連した本を読むことで、読解力もついてきたように思います。



タスクに取り組み、一步一步上る成長の階段

なにごとにも全力で挑戦する校風のもと、女子の特性を活かして能力を伸ばす狙いから、横浜女学院では、毎日を、そして1年を、適切なタスクで満たしています。一人ひとりが責任をもって自分の役割に取り組む経験、いくつもの役割を切り替えながら集中して成し遂げていく経験を重ね、自分を知り、達成感を味わい、世界で求められる女性としての力を身につけていきます。



4月 | 入学式



4月 | 中1・中2八学会



10月 | 中3ニュージーランド海外セミナー



6月 | 体育祭



9月 | コーラスコンクール



11月 | なでしこ祭



12月 | クリスマス礼拝



1月 | 百人一首カルタ大会



3月 | 卒業式

横浜の空と海をモチーフにした制服

横浜の青い空と海をイメージした明るく爽やかなデザインの制服。冬服・夏服とも組み合わせて着こなしのバリエーションが楽しめます。



冬服

夏服

横浜女学院での学びを力に 未来へ向かう卒業生

横浜女学院を巣立っていった卒業生たちにとって、学校は「もうひとつの我が家」。うれしい時も苦しい時も帰ってきては羽を休め、元気をチャージする場所だといいます。6年間、勉強も部活動も全力で取り組み、夢をかなえ、生き生きと活躍している姿は、在校生にとってあこがれであり目標でもあります。

CLILで学んだことは、大学の授業に役立ちます。 横女の英語教育がいかに高いレベルにあるかわかりました。

高3の6月までソフトテニス部を続け、引退後に始めた受験勉強では科目ごとに先生に見ていただきました。入試模試を受けた時、まわりは「リスニングが難しい」と言っていたのですが、私は普通の授業と同じように感じて横女の英語のレベルの高さを実感、自信にもなりました。慶應義塾大学と国立大学の両方に合格し、1年次に一般教養でさまざまなことを学べる慶應を選びました。現在は社会学を専攻し、オンライン・コミュニケーションを社会的な視点で分析・考察しています。CLILの学びは大学の授業に通じるものがあり、とても役に立っています。



慶應義塾大学 文学部 人文社会学科 見目 綾音 2020年3月卒業



チア・個人留学・模擬国連・生徒会長を経験。 横浜女学院に育てられ、今の自分があるのだと思います。

中学はチアリーディング、高校ではニュージーランド個人留学や模擬国連参加、生徒会長を務めるなど刺激に満ちた6年間でした。進路は「開発教育」を目標として、理系クラスから文系に転向。先生は「教育ならあらゆる分野に包括的に取り組みますね」と後押ししてくださいました。小テストのおかげでコツコツ学習する習慣ができ、大学受験の基礎ができたと思います。横浜女学院は苦勞すべきところは苦勞させ、叱るべきところは叱り、考えるべきところは考えさせます。そのように育ててくださったからこそ、今の自分があると思っています。

国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科卒業 藤木 里紗 2018年3月卒業

苦手を克服しようと英語スピーチコンテストに挑戦。 背中を押して勇気を与えてくれた先生に感謝しています。

苦手な英語を克服しようと、スピーチコンテストに挑戦。先生から発音や表現などを丁寧に指導していただき、これをきっかけに人前に立つことに自信ができました。大学でもプレゼンテーションコンテスト、部活動の立ち上げ、落語への挑戦などさまざまなチャレンジを実行。何かの決断の時、横浜女学院での経験が生きていると感じます。教育に関わる仕事を志望し、大学での生物学の研究を経て、東京大学大学院学際情報学府で改めて教育について学ぶことを決めました。横浜女学院で身につけた挑戦する姿勢は、変わらずもち続けています。



東京理科大学 基礎工学部 生物工学科卒業 久保田 愛海 2016年3月卒業
東京大学大学院 学際情報学府 学際情報学専攻 文化・人間情報学コース 在学中



困難にも前向きにチャレンジすることを学んだ6年間。 人の人生を豊かにする仕事で社会に貢献したいと思います。

横浜女学院で学んだことは、困難なことにも前向きにチャレンジする気持ち。チアリーディング部ではキャプテンを務め、高校2年の全国大会で部として初めて決勝に出ることができました。大学は「実力以上のところにチャレンジしたい」という思いから、早稲田大学を目標に設定。高2の2月時点の模試ではE判定、その悔しさがバネとなりました。現在はメディア関係の仕事で、社会貢献に努めています。横女での学びを生かし、「人の人生を豊かにすることに関わる」「信頼関係を大切にすること」を常に大事に考えながら仕事をしています。

早稲田大学 教育学部 教育学科卒業 渡邊 真奈香 2012年3月卒業



資料編

クラスの特長と目標	P.15
ESD (持続可能な開発のための教育)	P.17
CLIL (内容言語統合型学習)	P.18
探究 (概念型学習)	P.19
国際教育	P.21
フォロー体制	P.23
6年間一貫教育	P.25
教科教育	P.27
補習・講習	P.32
進路指導	P.33
Q & A	P.35
防災・安全対策 / 学費・制服・指定用品など	P.37
学校長メッセージ	P.38

3つの教育理念

学習指導

可能性を伸ばし、
人生を豊かにする
知性と感性を
深める

「愛と誠」の人間教育

共生教育

個性を尊重し
信頼と友情を築き
共に生きる喜びを
高める

キリスト教教育

聖書の教えを学び、
礼拝とキリスト教行事を通して、
いつの時代にも通じる
真実の生き方を求める

Live your purpose.

クラスの特長と目標

Class introduction

個性と目的に合ったクラス制で、
真の学力と国際的な視野を身につけます。

横浜女学院では、本校伝統のこまやかな学習体制とキリスト教に基づく人間教育を核とし、これからの社会に求められる女性の育成に取り組んでいます。一人ひとりの個性と目的意識に合わせて「国際教養クラス」「アカデミッククラス」を開設し、密度の高い「学び」を展開。それぞれの将来像に向けて着実に才能を伸ばすカリキュラムで、国際的な視野を広げながら、真の実力を身につけていきます。

国際教養クラス

教科学習と人間教育、国際教育を英語で実践。国公立大学、国際教養系大学や海外大学を目指す。

国際教養クラスでは、英語に特化した授業を展開します。「英語」の習得のみならず、英語で理解し、考え、自分の意見を伝えられる真のコミュニケーション能力を育成します。英語を学んできた生徒だけでなく、中学に入学後に初めて英語を学ぶ生徒でも国際的な教養を身につけていくことができるようにサポートをします。なお、国際教養クラスは、3年間クラス替えはありません。

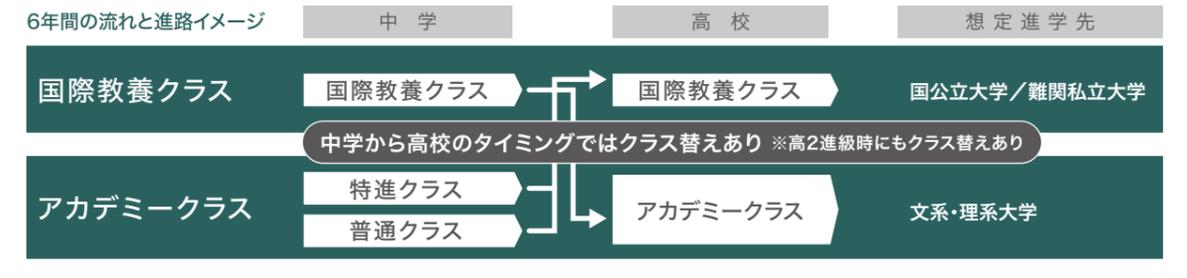
<p>1 中学3年間で26単位の英語の授業</p> <p>中学1年時には、英語の基礎を徹底的に学習します。初めて英語を学ぶ生徒も安心して学ぶことができる指導体制です。中学3年時では、CLILを用いて、他教科、世界的な諸問題などをテーマとした内容も英語で学び考えます。</p>	<p>2 教科横断統合授業</p> <p>得た知識をつなぎ合わせ、自分なりの考えを生み出し、発揮する力を養います。そのため身近にある小さな課題から授業を始めて、複数の教科からの視点で問題の本質に迫る力を育成します。これらを通じて、自分の考えを発表し、互いに認め合うことで自己受容力も向上させます。</p>	<p>3 ニュージーランドセミナー・アメリカ留学</p> <p>中学3年時には約1ヵ月間のニュージーランドセミナーに参加し、現地姉妹校や提携校、語学学校で学びをさらに進化させます。また、高校1年時には、希望者を対象にアメリカ留学を3ヵ月間実施します。提携大学に通いながら徹底的に英語を学ぶとともに自らの価値観を広げるプログラムです。</p>
--	---	---

アカデミッククラス

緻密な学習体制と多様な経験を重ねて真の学力を培い、難関大学を目指す。

オリジナル教材や先取り学習などを効果的に取り入れ、一人ひとりに合った学習により学力を伸ばします。また、これまで長年にわたり実績を上げてきた「特進クラス」の指導で培ったノウハウを、アカデミッククラスでは普通クラスにも取り入れ、自学自習の姿勢や主体的な学習の発展をサポート。充実した学校生活を送りながら、大学受験に向けても着実な準備を進めていきます。

<p>1 特進クラスと普通クラス</p> <p>授業内容をより深く、そして広く発展させていく特進クラス、基本的な事項を徹底的に学びながら発展をさせていく普通クラス。これらのクラスの設置により、一人ひとりの学力をより効果的に高めています。高校からは、国際教養クラスとアカデミッククラスの2クラスで自分の進路に向けた学びを深めていきます。なお、高校2年進級時に文系・理系を選択します。</p>	<p>2 成果に合わせCLILを実施</p> <p>「英語を」学ぶことを大切にしながら、「英語で」学ぶことへ発展させていきます。中学3年時では、習熟度に応じてCLILを導入。さまざまなテーマで行うディスカッションやプレゼンテーションを通して、英語でのコミュニケーション力や思考力を高めていきます。</p>
---	---



第二外国語

英語以外の言語を通じて異文化に触れ、
世界への視野を広げていきます。

日本人に身近な英語だけではなく、言語を幅広く学ぶことは、国際的な視点を養う上で有意義です。言語を通じて、その国の文化を学ぶ機会にもなるでしょう。本校ではドイツ語、スペイン語、中国語を第二外国語として学びます。



第二外国語の学習について

- 中学1年時には様々な国の言語を通して、文化などを学びます。
- 中学2年時にはドイツ語、スペイン語、中国語をすべて学びます。
- 中学3年時に3言語の中から1つを選び、より深く学びを進めます。
- 大学生のチューターによるグローバルスタディーズも選択できます。
- オリジナルのテキストや映像を活用し、言語を通して文化や歴史にも触れます。
- 世界の人と交流する楽しさを、様々な機会に体験していきます。

主な授業内容

- | | |
|--------|---|
| 中国講座 | <ul style="list-style-type: none"> ● 中国語について ● 中華料理について ● 中国で縁起の良いものについて |
| ドイツ講座 | <ul style="list-style-type: none"> ● ドイツの学校について ● ドイツの料理について ● ドイツの伝統的なお祭りについて |
| スペイン講座 | <ul style="list-style-type: none"> ● スペイン語圏について ● スペイン文化とメキシコ文化について ● メキシコのお菓子について |



ESDとCLIL

Education for Sustainable Development and Content and Language Integrated Learning

国際的な問題意識と英語運用能力を身につけ、
世界の人々と協働し貢献できる人材を育成します。

横浜女学院では、ESDの7つの力を教育目標に設定。成長段階に応じてさまざまなテーマに基づき体験を重ねることで、社会や世界への視野を広げ、自分自身の価値観や将来像を見つめる取り組みを行ってきました。さらに、CLILによりそれらを「英語で」学ぶことで、英語の5技能を高めます。グローバル社会において人々と力を合わせ、持続的な発展に貢献できる女性を育成します。

ESD

Education for Sustainable Development

ESD = 探究 × Sustainable Development

探究が養成する「自律的に学び続ける資質」
SDが養成する「持続可能な世界を実現しようとする地球市民としての資質」

世界が予測困難な時代を迎えるなかで、21世紀を生きるには
次のようなコンピテンシー(能力・資質)が求められるとされています。

- 1 相互作用的に知識・技能を用いる
- 2 文化や歴史、意見・立場が異なるなど異質な集団と交流する
- 3 自律的に活動する

このようなコンピテンシーを培うための学習が、本校のESDです。
2021年度からはスーパーグローバルハイスクールネットワーク校に
指定され、全国連絡協議会や全国高校生フォーラムにも参加を
目指しています。



ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で、「持続可能な開発のための教育」と訳されています。世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題があり、これらの課題を自分の問題として考え、一人ひとりが自分にできることを実践する(think globally, act locally)資質を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能で公正な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。具体的な活動としては、国内外の大学や企業・国際機関・NGO/NPO等と連携を図り、講演会やワークショップを通して持続可能な開発目標SDGs(2015年国連サミットで採択)の中から、各自の課題を発見します。また、自分の目で見聞を広げるために地域社会でのフィールドワークやニュージーランドの姉妹校での生徒とのコラボレーション授業、そして、その成果をポスターセッション発表会や個人論文で発信する探究活動を行います。

持続可能な開発のための国際目標であるSDGsに基づき、多角的に問題解決型思考力を養います。中1・中2は出会いと気づきの機会を増やし、中3のニュージーランド海外セミナーで姉妹校生とともに考え発表するコラボレーション授業を実施。高校では国連機関・NPO団体などでのフィールドワークで問題解決を探り、ポスターセッションや小論文でその成果を発信。世界の問題を自分事として感じ、考え、行動していく中で、公正に共生社会を目指して貢献し、学び続ける資質を育みます。

中越 由佳奈



(ESD活動事例)

横浜元町 × 横浜女学院 SDGs PR・DAY

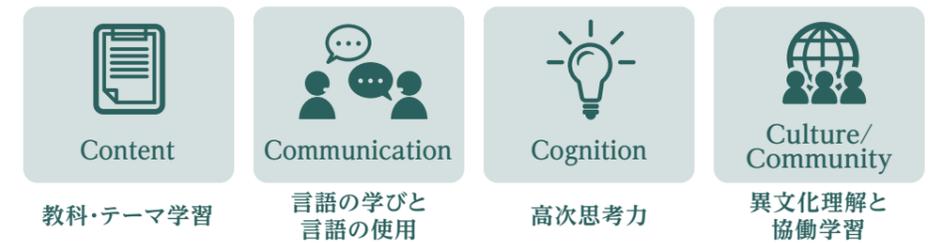
高1のESD活動テーマは「Think globally, Act locally」。21年度は横浜元町ショッピング・ストリートの20店舗に協力いただき、各店のSDGsの取り組みを取材し紹介するポスターを制作、11月13日の「PR・DAY」に店頭でアピールしました。SDGsに関するアンケートやユニセフなどの募金活動も実施。地元の方々とともに力を合わせ、SDGsの実現という同じゴールを目指した経験は、貴重な学びの機会になりました。



CLIL

Content and Language Integrated Learning

英語を学ぶのではなく、英語で学び考える。



CLILとはContent and Language Integrated Learningの略で、内容言語統合型学習と訳されます。適切なサポートのもと、教科学習と英語学習を組み合わせることで、内容と英語を相乗効果で習得できる学習法です。

本校ではCLILを通して、「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の4技能に「考える」を加えた英語5技能を豊かに伸ばしていきます。実際の国際問題に対し、キリスト教精神とESD的価値観に基づく当事者意識をもち、英語で考えて行動を起こすのが特徴です。国際的に活躍する人材育成と並行し、大学入試にも通用する英語運用能力を高めていきます。

〈学年ごとの学習内容〉

学年	学習内容	具体的な内容例
中3	ESD	ニュージーランド海外セミナーに備えて、現地で取り組みが盛んな生物多様性と多文化共生についてオリジナルの教材を用いて英語で学習します。
高1	ESD・他教科	教科書の内容をベースにしつつ、美術・聖書・地理など他教科の学習にも英語で挑戦します。
高2	ESD・他教科	高校1年生での内容に加え、より視野を広げてSDGsや世界平和などについて英語で学びを深めます。

〈CLIL実践例〉

- ① 中3：ニュージーランドにおけるマオリ族との共生をヒントに、日本国内における多文化共生を考え、自分たちができることを考えて実行する。
- ② 高1：絵画鑑賞を英語で行い、英語での情景描写の方法を学び、自分なりの鑑賞を互いにシェアすることで美術的なものの見方を身につける。
- ③ 高2：原爆投下の是非について日米の歴史教科書を比較することで、歴史観の違いと平和構築を批判的に考察する。

国際教養クラスのCLILを中心とした英語指導



探究 (概念型学習)

学んだ知識を基に思考し活用していく、
 激動の時代に求められるコンピテンシーを磨きます。



新型コロナウイルスによって、社会が大きく変わりました。地球規模の課題を自分事として捉え、直面する課題の解決に向けて主体的に考える力の重要性がより高まっています。

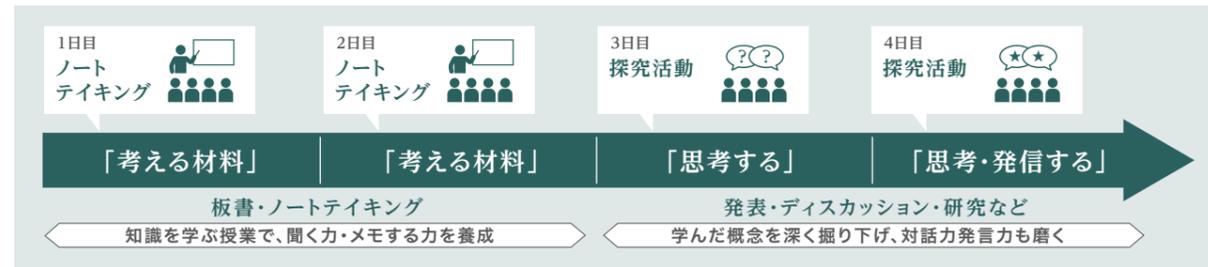
新しい学習指導要領は「知識と技能」に加え、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」、学んだことを生かす「学びに向かう力と人間性」を柱に、「生きる力」の育成を求めています。学びのあり方の変化に伴い、大学入学共通テストも知識重視からコンピテンシー重視へと変革が行われました。

横浜女学院では、このような時代の要請に対応し、これまで取り組んできたESDと連携しながら、探究(概念型学習)を導入し、右図の7つの力を伸ばす独自の学びを深化させています。概念型学習とは、知識を学ぶ従来型授業と、そこで得た知識を抽象的なキーワードを用いて概念化し、考察を深める探究型授業を交互に行う学習法です。概念化して思考し、見えてくる世界を自分の言葉で表現します。



横浜女学院の求める生徒像

1週間の流れ



探究の進め方は、学年ごとの探究ステートメントをベースに、主体的にテーマを選択。そのテーマを「事実上の問い」「概念的な問い」「議論の分かれる問い」に分けて考察を重ね、自分なりの答えを導き出し、テキスト、パワーポイント、動画など自由な形式で提出します。ルーブリックで探究学習の目的や評価ポイントを生徒に「見える化」。これにより生徒の学習意欲が格段に向上しました。そればかりか、この手法を模試の結果分析などにも応用し、自ら弱点を見つけ強化するといった成長も見られます。

〈社会科 探究ステートメントの一例〉

学年	重要概念	関連概念		探究ステートメント
中2	変化	革新と革命	統治	技術革新は、統治の仕組みを変化させる。
高1	変化	アイデンティティ	革新と革命	技術革新は個人的・社会的なアイデンティティに影響を及ぼし、革命をもたらすこともある。
高2	体系	対立	協調	人々は対立を通じて体系的な制度を作り上げ、協調を実現する。

先の読めない時代を生きていくには、直面する課題に主体的に取り組み解決策を考える力が不可欠です。そして常に学び続け、得られた知識を適切に生かしていく姿勢も求められます。その礎となるものが探究(概念型学習)です。知的好奇心を自由に広げ、自らのテーマを深く掘り下げ、発表する。知ることの素晴らしさや学ぶことの楽しさ、知識を生かす大切さを実感する機会をふんだんに用意し、未来を生きる力を養成していきます。

このような真の探究力を、教科ごとに、また教科を横断して多角的に育むことが横浜女学院の探究です。この力は、どんな時代になろうと、どんな難問に直面しようと、生きる支えとなるはず。大学受験はゴールではありません。変化の読めない時代にあっては、私たちは常に学び続けなければなりません。学んだ知識を生かすことで見えてくる世界の楽しさを中学高校時代に味わうことは、その意味からも重要です。社会に出て行く生徒たちが、常に思考を新たにして問題解決できるよう、できるだけ多く探究する機会を与え、自ら学び続ける力を6年間で獲得させる。それが本校の目標です。

中学2年の探究の授業から

歴史を普遍的に見る視点を養う

第二次世界大戦をキーワード『対立と協調』で概念化すると、国益・独裁者の存在・大衆社会のポピュリズムといった、どの時代、どの国家間の戦争にも共通する原理が浮かび上がります。歴史を普遍的に見る視点を養うことで、いま自分が生きている世界の諸問題について解決策を考えるヒントも見出せるようになります。それが歴史を学ぶ意義です。

探究は、自ら選んだテーマを掘り下げ、自分の言葉で表現する時間です。興味を通して教科を学ぶ楽しさを実感できれば、自発的に学びを深めていけるようになります。歴史の授業では政党ゲームや無知のヴェールゲームなども取り入れ、身分や立場が違うことで見える世界や理想の社会が変化することを体験。そのような心が動く出会いがたくさんある、楽しい授業を心がけています。知識暗記では苦手意識のあった生徒が、知識を活用する面白さを知ること教科の試験成績が向上していくケースも多く、探究の視点の大切さを感じています。



社会科 岩田 賢

課外活動「学びプロジェクト」Interview

一見苦手だと思えることにも積極的に取り組めるようになりました。

高校1年 佐々木 来那

バイオテクノロジーについて、最初は難しく自分には関係ないと思い込んでいたのですが、ヨーグルトや納豆など私の好きな発酵食品と関連があるとわかり、一見苦手だと思えることにも、積極的に取り組むべきだと考えました。また、人と情報を共有することで、自分だけでは気づけなかったことが見えてくるようになり、普段から情報を正確に伝える話し方ができるよう、意識して心がけています。



探究

さまざまな教科の知識が学びを深めることにつながっています。

高校1年 関口 呼幸

新しい知識を得たい、他の人の発表から自分にはない考えを知りたいと思って参加しました。幸福度についての調査では、結局、幸福はそれぞれの人の心の中にあるということに気づきました。文献が英語であったり、自然科学の世界を理解するのに計算が必要だったり、さまざまな教科の学習に少しずつ結びついています。学びを深めるのに、必要のない知識というのはないですね。



勉強が得意ではないはずだったのが、今は学ぶことが楽しいと感じています。

高校1年 酒井 陽花

ESDの授業がとても興味深く、「学びプロジェクト」で調べて発表する機会をさらに持たせたいと思いました。ネットの情報が必ずしも正しいわけではないということを知り、図書館で本を調べたりしています。勉強は得意ではないと思っていたのですが、社会問題に取り組むうちに学ぶことが楽しいと思えるようになりました。今後、LGBTなど普通の授業では出てこない問題を扱っていききたいですね。



国際教育

International education

世界の人々と出会い、自分を知り、
共に生きる喜びや、交流の楽しさを実感します。



アイデンティティ(自分の立ち位置)を確立するために自分とは違う価値観に触れ、それを認め、受け入れていくことが第一歩になります。本校では、その第一歩を踏み出すことができる留学・セミナーのプログラムを展開しています。どのプログラムも、本校が長年に亘って培ってきたオリジナルのプログラムです。単に、留学やセミナーに行くだけではなく、大切な「何か」を感じ取ることができるように事前学習を行っています。



■ LUOA (Liberty University Online Academy)

国際教養クラスを対象とした特別プログラムです。本校の提携大学であるアメリカのリバティー大学およびリバティー・クリスチャン・アカデミー(LCA)との共同授業をOn-Lineで行います。日本に居ながらにして、アメリカの小学・中学・高校・大学の授業を受講でき、単位取得も可能です。※アカデミッククラスも受講可能

■ アメリカ提携大学への特別留学制度

CBU(California Baptist University)で行われる約3ヶ月の短期留学プログラムです。英語の語学プログラムと大学の授業を通し、語学力を磨き、将来について考える良い機会になっています。キャンパス内にある寮とホームステイを組み合わせる滞在し、週末には近郊のディズニールンドやユニバーサルスタジオなども楽しめます。

■ YES (Yokohamajogakuin English Studio)

横浜女学院では、海外の大学への留学を視野に入れた独自の学習プログラムYokohamajogakuin English StudioをYESと名付け、中学生から取り組んでいます。高校在学中に5回まで受験できるEAT(English Assessment Test:リーディングとリスニングの2技能を測るオンラインテスト)での得点力アップを目的に個別最適化したプログラムを、国際教養クラスでは中学2年生から受講(アカデミッククラスは選択制で受講可能)。海外協定大学推薦制度(UPAA)に加盟し、協定の海外大学への進学がスムーズに行えます。

■ 全日本高校模擬国連に積極的に参加

国連加盟国の大使になりきって英語で議論し、国際会議をシミュレーションする「模擬国連」。横浜女学院は2014年に本大会に出場して以降、毎年、多くの希望者が参加、貴重な経験の場となっています。生徒からの要請に応じて英語科、社会科、国語科などの教員がサポートします。

■ 推薦留学制度で海外の大学へ

世界最大のキリスト教大学であるリバティー大学(アメリカ バージニア州)やカリフォルニア・バプテスト大学(アメリカ カリフォルニア州)への推薦入学制度があります。その他、可能性を追求し、自分で選んだ海外の大学への進学を希望する生徒のためのサポート体制も充実しています。

多彩な国内・海外セミナーや留学制度を設定

【セミナー】

名称	対象クラス	学年	期間	場所・現地校
ニュージーランド 海外セミナー	国際教養クラス	中3(全員)	10月 (約30日間)	ニュージーランド クライストチャーチ・オークランド クライストチャーチ・カレッジ・オブ・イングリッシュランゲージ、 ランギルル・ガールズ・スクール、エイボンサイド・ガールズ・ハイスクール
概要: 南島クライストチャーチでは、アカデミッククラスより先にニュージーランドに出発し、ホームステイをしながら語学学校に通います。その後、姉妹校、提携校に通い英語での発表や協働学習を行います。北島では、ファームステイを通じて農場体験を行います。				
ニュージーランド 海外セミナー	アカデミッククラス	中3(全員)	10月 (12日間)	ニュージーランド クライストチャーチ・オークランド クライストチャーチ・カレッジ・オブ・イングリッシュランゲージ、 ランギルル・ガールズ・スクール、エイボンサイド・ガールズ・ハイスクール
概要: 南島クライストチャーチでは、ホームステイをしながら語学学校や姉妹校、提携校に通い英語での発表や協働学習を行います。北島では、ファームステイを通じて農場体験を行います。				
アメリカ 海外セミナー	国際教養クラス アカデミッククラス	高2(希望者)	7月 (16日間)	アメリカ ワシントン・バージニア・ニューヨーク リバティー大学、グリーンブライヤー・クリスチャン・アカデミー
概要: バージニアでは、チェサピークとリンチバーグに分かれてホームステイをします。フィールドワークやボランティア活動などを通じて、さまざまな価値観を感じ取ります。				
ヨーロッパ 海外セミナー	国際教養クラス アカデミッククラス	高2(希望者)	7月 (14日間)	ドイツ ニュルンベルグ・ベルリン・フェルトハイム カールベヒシュタイン、マリワードシュール
概要: ベルリンとニュルンベルグでは、ホームステイをします。フェルトハイムでは、再生エネルギー施設を見学し、「エネルギー利用」について体験します。				

【留学】留学希望者には選考試験を実施(アメリカ海外留学を除く)

名称	対象クラス	学年	期間	場所・現地校
アメリカ海外留学	国際教養クラス	高1 (希望者)	5~7月 (12週間)	アメリカ カリフォルニア州 カリフォルニア・バプテスト大学
概要: カリフォルニア・バプテスト大学に通い、語学プログラムと大学の授業を受けます。				
ニュージーランド交換留学	国際教養クラス アカデミッククラス	中3・高1 (希望者)	1月~3月 (6週間)	ニュージーランド ランギルル・ガールズ・スクール
概要: 滞在中は、ホームステイをし、学校に通学します。帰国後は、現地からの交換留学生の受け入れをお願いしています[3月~4月(6週間)]。				
ニュージーランド 中期留学 (12週間)	国際教養クラス アカデミッククラス	中3・高1 (希望者)	1月~4月 4月~7月 7月~10月 10月~12月	ニュージーランド ランギルル・ガールズ・スクール
概要: ランギルルにて1学期分の授業を受けます。ランギルルへの通学は、寮からになります。				
ニュージーランド 中期留学 (24週間)	国際教養クラス アカデミッククラス	中3・高1 (希望者)	1月~7月 4月~10月 7月~12月	ニュージーランド ランギルル・ガールズ・スクール
概要: ランギルルにて、2学期分の授業を受けます。ランギルルへの通学は、寮からになります。				
ニュージーランド長期留学	国際教養クラス アカデミッククラス	中3・高1 (希望者)	1月~ 12月上旬	ニュージーランド ランギルル・ガールズ・スクール
概要: ランギルルにて4学期分(11ヶ月)の授業を受けます。ランギルルへの通学は、寮からになります。				

フォロー体制

教員やチューターが、さまざまな立場から見守り、知的好奇心や意欲の向上をサポートします。



横浜女学院では、生徒一人ひとりの個性や努力の様子を、教員やチューターたちが共有しています。教室や「勉強クラブ」での取組み、部活動や生活面まで、適切に声をかけ、まるで学校全体が大きな家族のように、皆で一人ひとりを見守ります。安心して心落ち着けて学ぶ環境のなかで、生徒たちは知的好奇心に導かれ、自ら決めた目標に向かって主体的に努力をしていきます。



大学生チューターによる、親身の学習フォロー体制

放課後の「勉強クラブ」や自習の時間には、現役大学生のチューターがサポートします。学習面での質問はもちろん、学習計画や勉強と部活動の両立に悩んだときなど、気軽に相談できる存在です。大学生と身近に接することで、自分の将来をデザインするきっかけにもなっています。また、中学1・2年生を対象とした「大学生補習」も実施しています。英語と数学を中心に弱点の補強だけでなく、生活面などの学校生活もサポートしていきます。



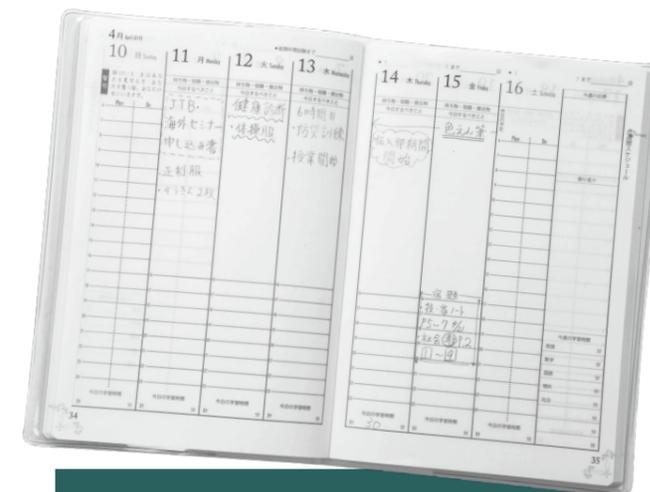
自学自習の習慣を定着させる「勉強クラブ」(中1・中2必須)

中学校に入学後、新しい環境に馴染むプロセスの中に、自学自習の習慣づくりを組み込みます。中学1・2年生を対象として、週に1日(月曜日)、大学生のチューターがサポートする「勉強クラブ」を実施。課題を自力で解くと同時に、活動ノートによりPDCAを自然に身につけていきます。



情報を活かす力を養成するICTと総合学習

ICTスキルとリテラシー養成のために全校Wi-Fi化を実現。中学1年生から全員がタブレットを用いて世界中の情報にアクセスし、調べ学習やレポート、プレゼンテーションなどに活用します。多様な経験や発見のある双方向授業や、思考力・対応力を育むe-ポートフォリオの作成にも取り組めます。



自律の姿勢を育む「女学院手帳」

本校オリジナルの手帳に週の目標や定期試験までの日数、To doリストや休日のタイムスケジュールを記入し、計画通りに進めたかを各自チェックします。この手帳を使いこなすことでメリハリのある生活リズムや学習習慣が身につく、目標に向かい計画を立てて努力する姿勢が育まれます。

■ 学習センター 本館2F

自分の可能性を広げていくための自習スペース「学習センター」。ここでは、自習だけでなく、大学生のチューターのアドバイスも受けることができ、勉強方法や進路についての相談をすることもできます。

※2022年度開室時間		
曜日	時間	チューターの人数
月	16:00~17:50	10
火・木・金	16:00~17:50	2
土	13:00~17:50	2
長期休業期間中	9:00~15:00	2

■ 自習室 新館1~3F

朝や放課後の時間に、自由に使用することができます。



■ 小テスト 対象:中1~高1全員

朝の時間などを活用し、授業の予習や復習をスモールステップで確認し、定着を図ります。テストに向けた勉強方法や単元でのつまずきに気がつくことで、自分の勉強方法の見直しに繋がっていきます。



■ 勉強クラブノート

勉強クラブの際に出す勉強クラブノートは勉強クラブで行った学習について振り返る場です。自分の勉強方法や今日の取組みをまとめます。また、苦手な科目の勉強法や単語・用語の覚え方等をチューターの方に気軽に相談できます。



英語

英語を学ぶから英語で学ぶへ。

英語科では中高の6年間を通して、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能の土台を育成し、英語で考え、他者と協力して行動できる力を育てます。実用的英語力を高めることはもちろん、英語を学ぶ中で多様な価値観に触れ、英語を使って何をするのか考えることができる教育を行っています。



教科の特色

CLIL(内容言語統合型学習)

国際教養クラスではCLILというヨーロッパ発祥の最先端の外国語教授メソッドを用いて、英語を英語で学ぶ授業を行っています。単なるオールイングリッシュの授業ではなく、他教科や世界の問題について深く考え、クラスメートと協働しながら学んでいきます。CLILの授業では検定教科書だけでなく、オリジナル教材を用いて実施しています。CLILのプログラムは上智大学の池田真教授に監修いただき、毎年改善を重ねています。

ICTの活用

デジタル教科書、マイクロソフトTeams、ロイノートなどを活用し、一斉授業では難しいリスニングやスピーキングも効果的に指導を行っています。ICTの活用によって、自宅でも英語の音声を活用した学習がしやすくなり、音読やスピーチといった課題も効果的に実施することが可能になりました。音声を使用した学習は英語学習の基本であり、ICTは授業内のみならず、自宅での学習習慣の形成も促します。

アドバンストクラス

入学時に英語のレベルが一定(英検3級から準2級程度)を超えている生徒を対象にアドバンストクラスと呼ばれる少人数の取り出し授業を行っています。アドバンストクラスはネイティブの教員が主に担当し、様々なトピックを通じて4技能を徹底的に鍛えます。また、日本人の教員も文法などの補習授業を行うことで、バランスの取れた英語力を育成します。

「読む」

中学生では、「New Treasure」を使用し、身につけた文法事項を活用しながら短い文章から長い文章まで読む力の基礎を身につけます。また高校生では、世界で起こっているさまざまな問題について取り上げた教材を活用し、論理的に読む力を身につけます。

「聞く」

英文を聞き、音読した音声を録音し、自ら確認する音読支援システム「Repeatalk」を使用しています。自分が録音した音声は、ネイティブの教員がチェックをしフィードバックをします。中学生の英会話の授業では、クラスを2分割した少人数制で展開しています。高校生のCLILの授業では、海外のニュースを聞いて国際問題について考えるための情報収集を行います。

教科より

英語科 早瀬 純代



世界中でグローバル化が急速に進む中において、「使える英語」の需要は高まるばかりです。本校では、時代が移り変わる前から「使える英語」にこだわりをもって取り組んできました。スピーチやCLILなどを通して知識のみに留まらない英語力が身につく授業を実践しています。その力をもとに将来、世界中の多様な場面で活躍してほしいと願っています。Learn from Yesterday. Live for Today. Hope for Tomorrow. 今の学びは確実に未来の自分につながっている!と信じて、一步一步進んでください。

課外授業「Book Club」

アメリカの中高生レベルの英語の本の多読を通して、英語の読解力・理解力を高め、最後に参加者同士で意見を述べ合い発信力を養います。



「書く」

オリジナルのワークシートを活用し、中学3年間で身につけた文法事項や発信力をもとに、より正確でアカデミックに自分の意見を表現し伝えていきます。国際問題について論じるために必要な語彙は、「読める」だけでなく、「使える」力を身につけていきます。

「話す」

パターンプラクティスを多く盛り込み、コミュニケーションの中で英語を習得する構成のオリジナル教材「We Like English for Global Communication」を使用します。「発表する力」だけでなく、「コミュニケーションでできる力」を育成するため、スピーチを聞いた後のフィードバックや議論も英語で行います。

国語

21世紀型コンピテンシーを支える言語力の養成。

複雑化する社会のなかで求められる3つのコンピテンシー(「相互作用的に知識・技能を用いる」「異質な集団と交流する」「自律的に活動する」)を支える言語力を養成。分析的な批評を繰り返すことで育成した読解力=思考力を核とし、相手の考えを聞く力、伝える力、話し合って合意を形成する力を身につけます。

教科の特色

分析的な批評を実践する双方向的な授業

「読む力」においては、作品や課題文を「読む・理解する」のではなく、分析的に批評し、双方向的な議論を行いながら、読解力を養成。「書く力」「話す力」「聞く力」においても同様に、「身につける学力」を項目化し、その修得を目標とした「こだわり」ある授業を実践します。

リーディング・ワークショップ(国際教養クラス)

米の教育者ナンシー・アトウェルの実践にない、週3時間図書室でリーディング・ワークショップを実施。みずからの「読み」を振り返りながら、古今東西の文学作品を自分で選び、読み続けることで高い読解力を培い、「自分たちが出ていく世界について、何百冊もの本を読む中で出会った考え、言葉、歴史、時事問題、人間の経験、場所について知っている人として、世界に出て※」いきます。※「イン・ザ・ミドル」より引用

教科より

国語科 鈴木 雅子



ことばは、使って初めて生きたものになります。使えることばの数が多ければ多いほど、その人の表現は、豊かになり、奥行きが生まれ、また、正確になっていきます。国語の授業では「ことばは使ってこそ」の心で、優れたことばの使い手になることを目指してまいります。読書を楽しんだり、人の話を聞いたり、書いたり話したりすることによって、ことばで考え、それを伝えることを楽しんでいきたいと思えます。学び浸る充実した時間を、共に過ごしてまいりましょう。



数学

「数学」を「実践」していく力の育成。

数学は考えること自体を訓練して思考力を身につけることを目指し、問題解決学習を行う教科です。自分で学んでいくことの大切さを体得し、パターン学習ではなく本質的な理解に到達することを目標としています。

教科の特色

「実践力」の発揮

学んだ知識や計算力を発揮していくために全国数学選手権大会(数学甲子園)に出場しています。限られた時間の中で初めて出会う問題に対してあきらめずに取り組んでいくことで新しい発見をしていくよい機会となっています。また、数学検定試験にも積極的に受験を勧めています。

フォロー体制

演習量を増やすことで基礎力を高める「希望制補習」、理解が不十分な部分を徹底的に基本演習で基礎力を定着させる「指名制補習」、長期休業期間中にも講習を実施し、基礎力の定着から大学入試に向けた準備まで一人ひとりに合った内容を設定しています。

教科より

数学科 斎藤 良光



数学を通して、いろいろな角度から物事を見られるようになり、複雑な問題を簡潔に処理できる論理的な思考力を身につけてもらいたいと考えます。そのための基本が4ステップ学習です。中1から予習・授業・復習・演習の取り組みを確実に実行していただきます。自己評価ノートや各自で作成する要点ノートなどが、家庭学習でも役立つはず。中学時代に基礎力と自学自習の習慣を身につけることで、高校の学習にも対応し、幅広い進路選択が可能になります。



理科

「探究」・「理解」・「活用」

自然現象に興味関心を持ち、科学的に探究し理解する力。そしてその力を活用していく姿勢を育成します。興味関心の育成、科学的探究の仕方、現象に対する科学的理解まで段階を踏んで指導していきます。

教科の特色

■ 「なぜ?」と「なるほど!」を育む

中学では、学んだ知識をオリジナル実験ノートを活用しながら観察や実験に取り入れ、科学的探究や理解を深めていきます。

■ 活用力を高める

高校理系クラスでは、「物理チャレンジ」「化学グランプリ」「日本生物学オリンピック」に参加し、授業を通じて身につけた科学的な思考力を発揮していきます。

■ 英語で学ぶ「理科」

中3では「生物多様性」について、ネイティブと理科の教員によるチーム・ティーチングを行い、英語で「理科」を学ぶことで内容を「深化」させています。

教科より

理科 塚本 貴博



理科のおもしろさは、身近な現象を「なぜ」と思い「なるほど」と理解することです。授業を通じて科学的な思考力を身につけてください。もちろん授業だけで森羅万象を語りつくすことはできません。しかし、人生において「わからない問題」に出会った時、思考をやめるのでも逃げ出すのでも他人の答えに賛同するのでもなく、よく考えよく調べて自分なりの答えを出せるようになってください。また、人間が自然の一員であることを認識し、自然保護の観点から社会に貢献してほしいとも考えています。



社会

「thinking」・「judge」・「action」

正解のない答えにチャレンジしていくために「考え、判断し、行動を起こしていく」力を育成します。そのため、フィールドワーク、グループワーク、ディベートなどを活用し、習得した知識を活用していく場面を設定しています。

教科の特色

■ 考え、判断する

国名カルタの作成、グループワークによる新聞制作、自らの意見を記述する新聞ノートを通じて、自分で考え、判断していく力を育成していきます。

■ 各種検定

国税庁による「税についての作文」や「世界遺産検定」「ニュース時事能力検定試験」にも積極的に参加し、習得した知識を活用していくことを学んでいきます。

教科より

社会科 山本 竜也



人間が作り上げてきた制度や思想を知ることで、自分が置かれている現代社会への理解が深まること。それがこの教科のおもしろさです。社会科を通して、私たちが守るべきルールや規範は、どのように成立してきたのかを学び、人間として良く生きていく糧にしてほしいと思います。思考力・判断力を身につけるためには、必要な知識の習得は不可欠です。また、大切なのは学んだことをどう生かすかです。知らない世界を知る喜びのために、知識に対して貪欲に取り組んでくれることを願っています。



聖書

神を知り、自分と向き合い、隣人を愛する。

本校の根幹をなす聖書の授業では、「自分は神さまに愛されているかけがえない存在」だと気づき、真理を探究する態度を育成します。聖書の教えを知り、自分を見つめ、他者の考えに触れながら、「神さまを愛し、隣人を自分のように愛する」生き方を共に考えていきましょう。



教科より

聖書科 柴田 主悦



『我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか』ゴーガンが晩年の大作に書き残したこの言葉は実に、私たち人類の生涯の問いとも言えるでしょう。そのような人生をかけた問いから、なぜ学ぶのか、人との関わり方、善い悪いとは何かといった日常生活で生じる問いまで、礼拝・聖書の授業・キリスト教行事を通して向き合います。これらの問いについて、聖書にはなんと書かれているのでしょうか。知らなくても生きていけます。しかし、2000年以上受け継がれてきたものを知り、考えることは、価値観が溢れ返る時代において重要な時間だと考えます。「自分は神さまに愛されているかけがえない存在」そのことをまず知ってほしいと願っています。

音楽

心の目と耳を研ぎ澄ます。

読譜能力の養成と実技技能の習得を図り、感性豊かで説得力のある自己表現へとつなげます。クラス全員が心をつなげてハーモニーを生み出す「コーラスコンクール」は、最高の発表の場であり、成長の記録でもあります。



教科より

音楽科 岡本 真緒



純粋な目と心で掘り下げ、深め、高めて、心と身体を調和させてくれるものが音楽です。楽譜の中の秩序を認識した上で、TPOをわきまえつつ、のびのびと表現ができること。プレスコントロールなどで心身のバランスを自身でコントロールできること。音楽を通じてそのようなことを学んでもらいたいです。また、些細なことにも興味を持ち、積極的に取り組む姿勢を大切にしています。そのなかで見えてくるもの・聞こえてくるものを選別し、すべきことを主体的に行える人になってほしいと思います。

美術

感性豊かに表現し美を求める心を育む。

ものをよく見て発見し、色や形を使ってイメージする表現の楽しさを味わい、個性豊かな作品づくりを目指します。創造的技術の向上、美への探究心を育みます。キリスト三大祝日にちなんだ作品制作を行うことも特徴です。



教科より

美術科 深川 貴子



美術には正しい答えはありません。他人と違うことも評価され、個性が伸ばせる教科だと思います。美術はできなくても困らないし、知らなくても生きていけます。しかし、できると楽しいし、知っていると人生がより豊かになります。ものづくりを楽しみ、美しいものを探し求め続けていってください。日頃から五感を敏感に働かせて、良いものに触れる機会を多く持つことも大切です。生涯美術を愛好するゆとりのある心を育ててほしいと思います。

家庭

輝く未来へ、「生きた家庭科」を。

調理実習・被服実習・保育実習・住居学実習・情報学実習など、女子教育ならではの幅広い実習で、技能や知識を実生活に生かせる形で習得していきます。自主性や情操はもとより、めまぐるしく変化していく時代を生き抜く女子に求められる力を育みます。



教科
より

家庭科 武内 一恵



2017年度より、本校は家庭クラブ連盟に加盟しましたが、これは神奈川県内の私立高校で唯一のことです。加盟により、家庭生活の充実向上を目指す実践活動であるホームプロジェクトコンクールに参加が可能となり、高校1年生の生徒が神奈川県優秀賞・優良賞を受賞、本校の家庭科教育も高く評価されました。このように本校は独自の女子教育を目指し、時代の流れとともに常に授業内容も変化、そして進化していきます。本校でしか学べない「生きた家庭科」を身につけ、将来、さまざまな場面で活躍できる女性となることを願っています。

保健体育

人を思いやる心と体をつくる。

“できる喜び”と安全な授業に留意し、運動技能の獲得だけでなく、個人の到達度やグループ活動での自己の役割を意識させています。その取り組みの一つに体育祭があり、力を合わせることの大切さを学んでいきます。



教科
より

保健体育科 浅野 菜津美



技能の高低ではなくスポーツという一定のルールの中で自己表現できること、グループの勝敗に対して工夫して取り組み、その成果を確認できること。それが体育の魅力だと思います。授業を通して、得意・不得意な種目に関わらず自分ができるところを見つけて取り組んでいくこと、健康・安全に対してさまざまな視点からアプローチすることを学び、人としての力にしてください。「できる」ではなく、「挑戦」していく。そんな心構えで6年間の授業に臨んでください。

情報

情報活用の実践力。

情報を収集、処理、表現するとともに、効果的にコミュニケーションを行う力や問題解決力をつけます。また、受身ではなく、教え合い学び合うことを大切にした授業で、情報機器や情報通信ネットワークを安全に活用するための知識と技術を習得します。



教科より

コンピュータのしくみを知ることで、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用できる力と最適な処理方法を学び、日常生活にも役立つ力を身につけてもらいたいと思っています。苦手意識を持たず、使ってみようという気持ちや姿勢を大切に学んでください。便利な点は活用し、気をつけるべき点には注意してパソコンやSNSなどのネットワークと上手につきあい、コミュニケーション力やクリエイティブな発想を生かし、社会に貢献してほしいと願っています。

補習・講習

それぞれの目標に合わせて、独自のカリキュラムも可能に。

基礎の確認から「わからない」を解消する指名補習、授業内容の補完及びレベルに応じた応用問題や入試対策を徹底する希望者講習など、個々のニーズに合わせて学習を定着させていきます。



講習の種類	概要	実施学年					
		中1	中2	中3	高1	高2	高3
高校進学講習 (希望者)	実施教科：英・数・国 実施内容：大学進学への演習				○	○	
通常補習授業 (希望者・指名者)	実施教科：英・数・国 実施内容：必要に応じて各教科の実力向上、弱点補強	○	○	○	○	○	○
夏期講習 (希望者・指名者)	実施教科：英・数・国・理・社 実施内容：各教科の実力向上、大学入試に向けての問題演習など			○	○	○	○
冬期講習 (希望者・指名者)	実施教科：英・数・国・理・社 実施内容：各教科の実力向上、大学入試に向けての問題演習など			○	○	○	○
春期講習 (希望者・指名者)	実施教科：英・数・国・理・社 実施内容：各教科の実力向上、新学年に向けての問題演習など			○	○	○	
大学生補習 (希望者)	実施教科：英・数 実施内容：大学生による弱点補強	○	○				
学習セミナー	実施期間：夏季休業中 3泊4日 実施教科：英・数・国・理・社 実施内容：各教科の学力向上						※2022年度は実施なし

(2022年度版)

進路指導



予測困難な時代だからこそ、主体的な学びによって明確な目標を掲げ、夢を実現させるためのステップをたどる。

探究型の授業やさまざまな課外活動・講座により、社会の中でどう生きるべきか、自分の力で発見する力がつきます。丹念な進路指導を行うことで、自分の夢を実現させるための志望大学・志望学部選びが可能となり、合格まで個々に合わせた細やかな学習サポートを実施。進路指導の過程の中でも生徒たちの成長は続き、目を見張るほどの変化があります。そして、将来に向けて明確な目標を胸に、大きな自信を持って巣立っていくのです。

本校の進路指導

中高6年間の中で、高い学力を身につけるとともに、学年に応じたプログラムを通じて、社会と自らのつながりを感じ、現代社会が抱える課題に気づき解決する力を養っていきます。そして世界・視野を広げ、将来どのように他に貢献すべきかを見つけ、その思いを実現していくよう指導していきます。具体的には、キャリア教育と進学指導の二つを軸に進めていきます。キャリア教育において、職場体験や講演会、ESD教育を経て、自己を理解し、学びたい学問分野やその先を深く考える機会を持ちます。進学指導においては、大学受験において希望が叶うよう、具体的な取り組みを指導していきます。



進路学習指導部主任 鈴木 俊典

「大学受験はゴールではなく、通過点としての目標である」というのが、私たちの進路指導の考え方です。大学入試や社会の中で必要とされる力は、大きく変わりつつあります。知識・技能を身につけるだけでなく、思考力・判断力・表現力を磨き、さらに多彩な活動によって主体性・多様性・協調性を養っていきます。その過程で、キリスト教の教えに基づき、自己の内面と向き合い、物事の本質を究めていく機会を設けます。学校の内外のプログラムで数多くの刺激を用意し、「やらなければならない」ではなく「これがやりたい」と思えることを自ら発見するための道筋を整えました。人としての成長と進路選択を一つにし、予測困難な時代だからこそ、自分で道を開く力をつけていきます。

■ 充実した高大連携プログラム

本校では、関東学院大学、成城大学、成蹊大学、明治学院大学、武蔵大学、東京女子大学、東洋英和女学院大学、國學院大学と全学部規模で連携協定を結んでいます。また、慶應義塾大学では、経済学部・総合政策学部・環境情報学部と、上智大学では外国語学部ドイツ語学科・文学部フランス文学科と学部学科連携をしています。

東京外国語大学とは、SGHアソシエイト事業への協力を得ています。本校の高大連携プログラムは、本校の教育カリキュラムで養われた学力をさらに大学教育で伸ばしていく力を育成することを目指しています。大学の先生を招いての講座だけでなく、ESD Timeや海外セミナーなどがより効果的なプログラムになるよう協力をお願いしています。

■ 生活に直結する知識を学ぶ土曜教養講座(全校 希望者)

教科で学んだ知識を教科の枠を超えて実際の生活などに直結する事柄や考え方として学ぶことを目的として開講しています。講師は、本校の教職員だけでなく他業種の専門家や在校生の保護者の皆さんの協力によって行っています。年間20講座の開講を予定し、自由に選択して参加することができます。

■ 土曜教養講座開講講座 ※過去実施抜粋

- ・ゆかたレッスン!
- ・「プレゼンの極意」～今日から絶対うまくなる!～
- ・ミニ色紙
- ・100才までスマイルエイジング
- ・無限の可能性を秘めたプログラミングの世界
- ・ミスパイロットになるう
- ・押し花でオリジナルうちわ
- ・女性活躍と働き方改革
- ・IT開発
- ・スマホはなぜつながるのか
- ・ミャンマー国ヤンゴンってどんな所?
- ・環境負荷を表すフットプリント
- ・デザイン/アートの現場からみるクリエイティブ産業
- ・赤ずきん裁判に参加しませんか



■ 主な指定校推薦大学[2022年度]

学校名 / 指定校推薦枠				
横浜市立大 3	中央大 4	武蔵大 1	日本大 3	白百合女子大 7
上智大 3	法政大 1	明治学院大 4	東京女子大 25※2	昭和女子大 3
国際基督教大 1	学習院大 2	國學院大 3	日本女子大 7	清泉女子大 3
青山学院大 15※1	成蹊大 4	芝浦工業大 3	学習院女子大 1	聖心女子大 1
立教大 4	成城大 9	東邦大 3	東洋英和女学院大 20	他多数

※1 キリスト教学校教育同盟推薦を含む ※2 高大連携型

■ 主な大学の合格実績

学校名	2022	2021	2020	2019	2018	2017
東京大						1
一橋大						1
東京工業大			1			
防衛医科大			1			
北海道大					1	
埼玉大					1	
東京外国語大			1			
東京藝術大		1				
電気通信大						1
首都大東京				1		
お茶の水女子大					1	
横浜国立大					1	
横浜市立大	3	3	3	5	5	4
県立保健福祉大		1		1	2	
信州大		1	1			
熊本大						1
群馬大	1					
静岡大					1	
琉球大				1		
筑波技術大			1			
ハンガリー国立センメルweis大学				1		
ハンガリー国立ペーチ大学				1		
早稲田大		3	1	4	2	2
慶應義塾大	1	3	1	9		2
産業医科大医学部医学科		1				
東北医科薬科大医学部医学科		1				
上智大	2	2	5	6	6	6
東京理科大	2	2	3	2	2	2
明治大	3	2	2	6	8	8
青山学院大	6	3	10	6	5	4
立教大	6	10	4	7	8	7
中央大	5	3	6	8	8	5
法政大	3	2	7	11	6	6
学習院大	1	1	2	3	6	
国際基督教大	1	1	1	1	1	1
成城大	1	4	4	3	9	6
成蹊大	1	2	2	6	8	5
武蔵大			2	2		1
明治学院大	5	7	6	11	15	11
國學院大	2	2	4	4	3	2
東京女子大	2	5	1	4	6	4
日本女子大	3	1	2	4	8	4
津田塾大			1			
日本大	9	5	1	9	8	5
東洋大	2	1	4	2	5	4
駒澤大		1	1	4	2	3
専修大	1	1	1	3	7	
亜細亜大	1					
星薬科大					1	2
東京薬科大					4	1
東京医科薬科大			1			
明治薬科大				3		
横浜薬科大		3	3			
昭和薬科大	1		2			
杏林大					2	3
北里大	2	3	2	1	5	5
昭和大	1		2	3	3	3
東京女子医科大		1	2		1	1
順天堂大			2			
聖路加国際大					2	3
日本赤十字看護大					1	
東京都市大	2	2	3	6	4	3
東京農大	9	5	2	2	6	1
玉川大	2	5	2	1	1	2
桜美林大	8	3	5	3	3	4
神田外語大				2		1
帝京大	1	3	4	5	3	
工学院大			1	1	3	
芝浦工大	1	1	3	5	5	7
東京電機大		1			1	2
東邦大		1	2	2	1	3
東京家政大	2					
学習院女子大	1	1	2		3	2
聖心女子大	1		1	2	3	2
白百合女子大				3	4	1
清泉女子大	1		2	1	5	8
共立女子大	3	2	2	2	4	1
実践女子大			3	2	1	
大妻女子大		1	1	3	2	6
昭和女子大		3	2	3	6	3
多摩美術大	1	4				2
女子美術大		3	1	1	1	1
神奈川大	6	6	7	8	10	6
関東学院大	5	6	6	4	3	4
東海大	5	5	4	6	2	1
東洋英和女学院大	6	9	3	19	10	8
フェリス学院大	3	4	3	4	5	
同志社大		1				
立命館大			1	3		1

他多数

Q & A

受験生の皆様から寄せられる
ご質問にお答えします。



キリスト教教育をはじめ、学習指導や部活動など横浜女学院での学校生活の様子、またPTAの活動内容について、受験生の皆様から多く寄せられる質問にお答えします。個別相談をご希望の方は、ご連絡ください。

キリスト教教育

Q キリスト教主義の学校とはどういうことですか。

A イエス・キリストの教えに基づいて教育を行う学校のことです。「プロテスタントのキリスト教精神による女子の人間教育を行う」を建学の精神として掲げ、聖書こそ人間を創る真実の教えであると信じ、イエス・キリストの教えである「愛と誠」を校訓としています。自分を愛するように隣人を愛することのできる人になってほしいと願い、教える者も教えられる者も、主による「感謝・信頼・希望」を重んじています。

Q 教会には必ず出席しなくてははいませんか。

A 日曜日の教会出席を奨励していますが義務ではありません。聖書科の課題として教会出席レポートがあります。通う教会については特に指定はなく、授業の中で紹介をしています。

Q キリスト教については全く知りませんが、大丈夫でしょうか。

A ご心配ありません。ご家庭での宗教・宗派につきまちは問いません。毎朝の礼拝や6年間必修である「聖書」の授業を通して、キリスト教の教えを学んでいきます。PTA活動の一環として、保護者のための「聖書に親しむ会」も開催しています。



学校生活

Q いじめはありますか。

A 学校は大勢の生徒が共に生活する場所です。精神的に成長途中にある生徒たちですから、友人間のトラブルは避けては通れないと思います。そのトラブルを乗り越えて、自分たちで解決する力をつけていくことが理想だと考えています。万一、生徒が「いじめ」と感じているならば、それは「いじめ」だと認識し、カウンセリングや保護者の方との面談、関係した生徒との対応など、解決するまでサポートします。

Q 不登校者はいますか。

A 現代社会の学校教育にあって、避けて通ることのできない問題だと思います。このような生徒には、時間をかけて話を聞き、心を解放できるように努めます。具体的にはご家庭との連携を大切にしつつ、全職員が一体になって問題と向き合います。「心に重荷を負っている生徒」が、自らその重荷を乗り越えて、解決できる力を身につける指導が大切だと考えています。

Q カウンセリングの先生はいますか。

A 専任のカウンセラーが常駐しています。カウンセリングルームでの面談は全て予約制で、生徒のプライバシーを守りながらカウンセリングを行います。養護教諭・生活指導教諭も組織的・積極的に指導をします。

Q 携帯電話の扱いはどうなっていますか。

A 平均1時間をかけて通学している生徒の事情などを考慮した場合、携帯電話を全面的に禁止することは正しいとは思えません。使い方の講座等で利用の仕方やマナーを指導し、学校内では電源オフをルールとして許可しています。

Q 保護者の面談はありますか。

A 生徒を交えて担任と三者面談を行い、学校生活の様子や学習のことなどを中心にお話します。

Q カフェテリアはありますか。

A カフェテリアはありません。昼食はお弁当持参が基本ですが、学校でパンと飲み物を販売しています。

Q 校則は厳しいですか。

A 規則で縛るのではなく、生徒自ら考え判断することが大切だと考えています。知性と品性を備えた自律した女性になってほしいとの願いを持って教育をしていますが、その願いは浸透しており、生徒たち自らが横浜女学院の伝統を守っていくという気持ちでいます。

Q 学校行事と学習との両立は大丈夫ですか。

A 教科で得た知識を活用する場、また学習の目標として行事を重視しています。行事は盛んで、それぞれ実行委員会が設立されるため勉強との両立は大変です。しかし、その大変さから時間の使い方を学び、体得した責任感や自立心は学習面での向上心に繋がります。そのことを踏まえた上で指導をしているのでご安心ください。

部活動

Q 部活動は全員参加ですか。

A 部活動の参加は任意ですが、共生教育の一環として大いに奨励している結果、中学生・高校生ともに100%に近い加入率です。上級生と下級生の縦の繋がり、同級生と協力する時間は、机上での学習では得られない素晴らしい経験になっています。

Q 勉強と部活動の両立を、どのように指導していますか。

A 部活動を、勉強ができない逃げ道にしないのはもちろん、やるからには両立できるのが当然という思いが皆にあります。毎日の宿題や小テストなどをきちんと行うことで、部活動と学習の両立が図れます。日曜日は公式大会参加のみ許可しています。

Q 部活動の人間関係の様子を教えてください。

A 中高一緒に活動します。所属する部に対する誇りを持っているため、上級生と下級生の縦の絆がしっかりと結ばれています。上級生の優しさに触れた生徒が「自分も下級生から憧れられるような先輩になりたい」と願うことも少なくありません。

Q 人気のある部活動、実績を出している部活動はありますか。

A 運動部では全国大会で上位入賞したチアリーディング部をはじめ、ダンス部、ソフトテニス部、バドミントン部に人気があります。文化部では吹奏楽部、書道部、調理部、コーラス部が人気です。仮入部の期間を設け、自分に合う部活動を選ぶよう配慮しています。

学習指導

Q 今まで英語を勉強していませんが、ついていけますか。

A 授業では基礎から丁寧に学習を積んでいきますから何の心配もありません。授業に集中し、宿題にしっかり取り組むことで、実力が十分についていきます。

Q 入学後も塾に通わなければなりませんか。

A 中学時代は授業に集中し、宿題や予習・復習を行えば十分なカリキュラムになっており、基本的に塾は必要ありません。授業の疑問点などは壁のない職員室で各教科の教員が個別に指導し、学習センターでの自習ではチューターがサポートする体制です。さらに学校では年間を通しての進学講習や長期休業中の講習会があり、多くの生徒が参加しています。

Q 宿題やテストについての方針を教えてください。

A 中学1年時は、約1時間半の家庭学習の習慣づけを目指します。小テストや宿題などが1週間の中で必ず予定されています。学年や教科の教師が互いに宿題の量などを確認しながら出しています。中学1・2年生は「勉強クラブ」で宿題など家庭学習の取り組み方をサポートしています。

Q 勉強についていけない生徒にはどのように対応していますか。

A 放課後の補習を行っています。補習は希望制のものとは指名制のものがあり、指名制の補習には定期テストの結果を見て担当教員から声をかけます。また、希望制の補習では基礎の定着から発展的な内容まで、生徒の到達度に合った指導で実力を伸ばします。

PTA

Q PTAの活動はどのようになっていますか。

A お嬢様の成長をサポートしていくためには、学校とご家庭の連携は欠かせません。その一つとして、PTA活動を行っています。クラス懇親会、ハンドメイド活動などを開催し、保護者同士の親睦も図っています。文化祭では、生徒たちと直接的に関わりながら、バザー

や模擬店のご協力をいただきます。父親のための「Fathers' Club」もあり、力強い支援と親睦の輪が広がっています。PTA活動への参加は強制的なものではなく、皆様無理のない形で活動しています。

その他

Q 海外転勤に伴い転校した場合、帰国後に復学はできますか。

A 国内、国外問わず一度入学した生徒が保護者の転勤などの理由で他校に移る場合は、二重学籍となるため転学・退学になります。数年後に復学を希望する場合は、転編入という形で認めています。

Q 長期留学中に習得した単位は認定されますか。

A 本校の提携校への留学中に習得した単位はすべて認定し、帰国後は進級を認めます(高校1年生で留学した場合は、帰国後2年生に進級します)。

防災・安全対策

地震対策

横浜女学院は丘の上にあるため大地震による津波に対して安全と考えられ、擁壁は国によって補強工事が行われています。校舎の耐震性については、1995年の阪神淡路大震災後に耐震調査を行い、問題を指摘された校舎の建て替え、改修を行いました。2011年の東日本大震災の際には全く問題ありませんでした。

災害時の対策

万が一、帰宅困難になった場合に備えて、全生徒用に3日分のサバイバルキット(飲料水・食料・保温シート)、寝袋、簡易トイレなどを常備しています。通学途中で被災した場合に備え、複数のチェックポイントを設定。学校最寄りの石川町駅には集合場所を決めて教職員が見回りにいく計画になっています。



防災委員会

災害は、時間と規模により臨機応変の対応が求められます。そのためにもシミュレーションと備えが欠かせません。横浜女学院では防災委員会がマニュアルを作成し、防災対策を練っています。

防災訓練

年に3回実施する防災訓練では、初期避難の他、通常の登下校とは違うルートで帰宅する迂回路確認も行っています。また、併設の横浜学院幼稚園との合同防災訓練も実施しています。

緊急時の連絡

非常用電源を備え、緊急連絡システム(メール・FAX・電話)を導入しています。ホームページでも最新情報をお知らせしています。

防犯・安全対策

正門には守衛が常駐し、オートロック式の開閉門を設置。校内要所に設置した防犯カメラで録画、職員室と事務室のモニターで確認し、各教室には緊急電話を完備しています。さらに警備保障会社との契約による不審者対策、警察官OBのスクールサポーターによる学校周辺の巡回、メディアによる安全情報などを利用。さまざまな手段で学校生活の安全を守っています。



▲横浜港開港当時(1860年代)の風景 横浜開港資料館所蔵

▲校舎屋上から横浜港を望む(2021年現在)

Live your purpose. 激動の時代に立ち向かう勇気と力を。

約150年前、横浜女学院が建つ横浜山手の丘に、日本で最初のキリスト教バプテスト教会が設立されました。時代は大きく変遷しましたが、私たちの教育には、一貫して変わらないものがあります。それは、キリスト教の教えに基づく「愛と誠」の建学の精神です。横浜女学院で過ごす6年間で、深く実感してもらいたいことは、自分は愛されている存在だということです。失敗したり、理想と違ったり、たとえ不完全であろうとも神や家族や仲間から愛されている。そのように自分を受け止める「自己受容力」を身につけてほしいと思います。そして他者も同じように大切な存在であることを知り、真の思いやりの心を育ててください。授業は、試験の成績を上げるためだけに行うものではなく、人として大切なことを学び、たとえば50年後にも人生を愛おしく思える核を得ることを目的としています。

一方で、激動する社会における価値観の変容に対応し、国際教育や探究学習を推進してきました。第二外国語の授業では、多様な文化

の中で互いの違いを認め合うダイバーシティの意識を高めます。持続可能な発展のための教育「ESD」では、サステナブルな社会を築くために、自分の力や才能をどう生かす社会に貢献することができるかを発見していきます。

Live your purpose. — 自分らしく生きる。そのためには、知識も力も必要です。中学高校時代は、たくさん笑ってたくさん泣いて、心を大きく動かしながら自分を知り、成長していく時期。愛され、必要とされていると実感することで自立へと向かい、失敗を恐れずチャレンジする勇気も智慧も湧いてくるものです。一人ひとり違う成長のステップを見守り後押しする環境が、ここ横浜女学院には整っています。

Sky is the limit. — 可能性は無限大。あなたの素晴らしい可能性を、山手の丘で大きく広げてください。

学校長 平間宏一

学費・制服・指定用品など

■ 2022年度学費(中学1年) ※2023年度は変更になる場合があります。

	国際教養クラス		アカデミッククラス	
	年額	月額	年額	月額
授業料	552,000円	46,000円	432,000円	36,000円
維持費	156,000円	13,000円	156,000円	13,000円
小計	708,000円	59,000円	588,000円	49,000円
PTA会費	12,000円	1,000円	12,000円	1,000円
後援会費	2,400円	200円	2,400円	200円
生徒会費	7,200円	600円	7,200円	600円
小計	21,600円	1,800円	21,600円	1,800円
合計	729,600円	60,800円	609,600円	50,800円
行事および教材費(預かり金)	※			

[注意]金額は変更になる場合がございます。

※教材費および校外学習その他の費用です。
2022年度の金額は148,000円です。
2023年度の金額は入学時にお知らせします。

- 授業料等校納金は、在学中に改定される場合があります。
- 学費の納入は銀行口座振替制です。
納入回数は年2回の分納(5・9月)、または月払いが選択できます。
- 教育振興費(任意寄付金)として1口5万円、2口以上を募集します。

■ 制服・指定用品・教科書・教材などの費用

品名	対象	価格(税込)	内容
正制服等	全員	約75,000円 (各1点の合計価格)	ブレザー・スカート、夏スカート(濃紺チェック)、スラックス(任意) 白ブラウス(長袖・半袖)、黒ストッキング 通学靴、ソックス(スポーツ・紺ハイソックス)
準制服	任意	約90,000円 (各1点の合計価格)	替スカート(グレーチェック)、紺セーター、ブルーブラウス(長袖・半袖)、 ベスト(紺・サックス)、ポロシャツ(白・紺)、ラップキュロット
コート	任意	約24,000円	紺シングルコート、紺ダブルコート
指定用品 体育着	全員	約52,000円 (各1点の合計価格)	バッグ(通学用・校内用) ジャージ(上・下)、体育着(長袖・半袖)、スポーツシューズ
教科書	全員	無償	
副教材	全員	約25,000円	各教科副教材(書籍)
聖書・賛美歌	全員	約6,000円	聖書協会共同訳/讃美歌21
ICT教材	全員	約140,000円	情報端末

入学時にご購入いただく用品の費用は次のとおりです。
(1) 各用品の単価・数量および購入方法などの詳細については入学手続時にお知らせします。
(2) 各用品は参考価格(2022年4月～の概算)です。価格は変更する場合があります。

■ 奨学金制度

成績優秀者、および在学中に経済的理由により学業を続けることが著しく困難になった生徒に対して、横浜女学院独自の奨学金制度があります。詳細は、お問い合わせください。

